

浜松観光ボランティアガイドの会

研修部主催研修会 「浜松城の最新調査結果」



楽しそうに話される鈴木氏

6月22日(火)13時半から15時まで、浜松市文化財課の鈴木一有氏を招いて標題の座学が、浜松市地域情報センターにて、当会会員68名の参加で開催されました。講義が始まる前の大村会長のお話にもあったとおり、この1年以上新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、観光ボランティア活動も研修活動も思うようにならない日々が続いています。その中で、感染対策をしっかりと行って開催された今回の研修会への会員の熱意と意気込みが感じられる参加状況でした。

講師の鈴木一有氏は簡単に自己紹介をされた後、早速今回のテーマに入っていました。浜松城の説明を

するとき、多くの場合は家康時代から始まりますが、鈴木氏は浜松城の変遷を「今川氏及び以前段階」の引間城から振り返り、「徳川家康段階」「堀尾吉晴段階」「徳川譜代段階」「明治期以降」の五段階に分け、段階毎に発掘調査でどのような物が発掘されてどのようなことがわかってきているかを、発掘調査時の写真を示しながら説明していきました。浜松東照宮の周りを散策すると、地形の特殊性に気が付きますが、お話の中でも、引間城時代の4つの曲輪を区切る堀が現在道路として名残を留めている価値について触れられていました。

「家康時代は土塁の城で、石垣の立派な城となったのは堀尾吉晴時代」と浜松城のガイドでは説明します。ところが「元亀元年の地震で石垣が崩れた」という記述が見つかったことから、「家康時代にも、もしかしたら石垣があったかもしれない、皆さんどう説明しますか」と私達に問いかけ、大村会長はじめ会員達がざわつきしました。過去の無くなってしまった物、資料の少ない物はわからないことが多いですが、まだまだ通説とは異なることが沢山あるのかもしれないと思うとワクワクしました。

さて堀尾吉晴時代の浜松城の姿は数度の発掘調査でかなり明らかになってきているようです。その結果に基づき、2014年に再建された天守門の復元参考モデルが油山寺の山門で、更にその山門は掛川城から移築されたもの、ということをお話は初めて知ったので、改めて油山寺に行ってみたくなりました。

鈴木氏が特に興味深いと言われていたのが、最終段階の明治期以降から現在の浜松城です。明治以後、三の丸は街になり、二の丸、本丸は学校、官公庁、動物園、スポーツ施設などの変遷を経て現在は官公庁と公園となっています。昭和33年の浜松城再建までの歴史も浜松市民の市民性を表しているようで面白く、浜松城変遷の変化の過程上に、今、私達もいるのだと思うと、自分も歴史の一部であると嬉しくなりました。

また肴町の間淵屋さんは、酒屋さんとしてだけでなく、こだわりスーパー、飲食店、はたまた最近では若い人たちにもっと肴町に来てもらおうと、素敵なチョコレート専門店まで経営されています。私自身最近注目していたお店だったので、江戸時代から続く由緒ある酒屋で、空襲でも全焼しなかったと言う話を聞き、間淵屋さんのすごさを再認識しました。

何より、お話しされている鈴木氏ご本人がとても楽しそうで、ワクワクして調査をされている様子が伝わり、浜松城をもっと知られるようにお手伝いしたい、と思いました。お城は再建して終わりでは無いのだ、と。今後浜松城を建て直すことは無いかもしれないけど、本丸、二の丸や城下町など、浜松城の全体像をもっとわかりやすく示す施設ができていくといいです。

鈴木氏はまだまだ私達に伝えたいことが沢山あるようでした。次回は城下町の遺構について、お話を伺いたいです。

それは四、五年前、浜松城の当番の日でした。桜も終わり青葉、若葉がキラキラ眩しい日。元気の無いひとりの青年が天守入口に現れました。「おはようございます」なんと小さな声。「おはようございます」私はことから大きな声で答えました。



ある日の浜松城入口から

青年は所在無げに一階の展示物を見ています。しばらくすると私に向かって歩いて来ました。「お話してもいいですか」「よろしいですよ」と私。何を話してくるのだろうかと思はしばらく待っていました。「あの、私、二十年前に九州から家出して来たんです」お城とか歴史の話じゃないんだ。「このごろ家に帰りたと思うようになったんですが、自分が立派になっていないので帰れない。立派になって帰りた」「二十年間生活してきたんですよ。それだけで立派ですよ。よく頑張ってきましたね」「立派でも何でもない。ただ生きてきただけでしょ」私は気がきたことを言おうと言葉を探していました。「まずは家に電話をして、ご両親の声を聞いてみたらどうでしょう。家出した息子が生きていたって大喜びすると思うけど。仕事に就いて今日まで生きてきたのはとても立派なことですよ。ご両親は喜んで誉めてくれると思いますよ。大きな声で『ただいま』って帰りなさいね。ご両親は

必ず喜んでくれますよ」私は真剣に考えて言葉にしていました。

「喜んでくれるでしょうか」「勿論ですよ」青年はしばらく考えている様子でした。「帰ってみようかな。来月、帰ってみようかな。帰りますよ。来月、仕事休みをもらって一度帰ってみます。父にも母にも会いたい。家出したことを謝ります」「頑張ってお母さんもお父さんも待っているわ。どこの親でも同じだと思う。この私だって無条件に喜びますよ」

振り返ると本日の相棒の T さんがニコニコ顔で二人のお客様を二階へ案内して行くところでした。青年を見ると顔がほころんでいます。「今日はありがとうございました。浜松城へ来て心が決まりました。来月両親に会いに帰ります。そしてまた浜松で新しい気持ちで頑張ります」一礼をして天守を後にする青年の足取りは軽い。二十年前の親子に何があったのかは知らないが、これからは良い方向に向かうだろう。

青年が帰った後の浜松城の青葉若葉は目に沁みるほどでした。この季節がくるとあの時の青年は今どうしているのだろうかと思ひ出されます。両親とのわだかまりが解けて今でも浜松で暮らしているのだろうか。私は多少役に立ったのだろうか。

浜松でもどこでも良いのです。あの青年が元気で暮らしているのなら・・・。

四、五年前、こんな一日がありました。

東ブロック 中野典子

会員の交流広場

6月半ばの日曜日、JR 東海の TOICA でウォーキングに申し込み、袋井駅からゆりの花咲く可睡斎に行ってきました。

可睡斎は家康公の幼少期から関わりがあり、11代仙隣等膳和尚が駿府人質時代に何度か教育を受け持ったことから、家康公が浜松城主になった折、その御恩のある和尚を城に招き再会しました。話しの最中に和尚が居眠りを始めたとき「和尚、睡る可し(ねむるべし)」と申されたことから可睡斎と呼ばれるようになったとか。

境内は 10 万坪と広大で、山門をくぐると風鈴の涼やかな音色で迎えてくれました。本堂そして位牌堂へ、その裏を左手に進むと井伊直勝と掛川藩主となった直勝の長男・直好のお墓があります。また、御真殿に進み、そこから右手に進み少し上

可睡斎と家康公



り、奥之院の手前に出世六の字穴があります。戦国時代、武田信玄に追われた家康公がこの穴に隠れて難を逃れたと伝えられています。

可睡斎に行ったら足を延ばしてはいかががでしょうか。

中ブロック 柳本幸子

会員の交流広場

県西部地域の施設見学のお勧め



ヤマハ掛川工場「ハーモニープラザ」

【ヤマハ掛川工場見学】昭和40年にアップライトピアノ専用工場として創業。10年ほど前にグランドピアノ工程が浜松市中沢町本社工場より移転され、従来のアップライトピアノ工場に加わり、更に木工部品加工工程も他工場より統合され、総合ピアノ工場として最新の近代的製造ライン設備を持つ世界に誇るピアノ工場です。敷地は25万㎡と広大です。工場見学は10時と13時半からの2回専任ガイドの案内があります。グランドピアノの最終組立ラインを見学（プラタモリで放映された工程は見れません）。所要時間は約1時間半。対象は個人客で1人でもグループでもOKです。お土産はハンマーのキーホルダーをもらえます。申し込みは電話（0537-24-8069）のみで、土日は工場が稼働してないので休みです。車の場合は、1号線を袋井市から原野谷川を超えて掛川市に入って北側数百メートル、来客専用

駐車場有。電車の場合は天浜線桜木駅から徒歩数分。JR愛野駅からタクシー。

【資生堂掛川工場】ヤマハ掛川工場より南東へ車で5分ぐらいの所。工場は資生堂の主力工場ですが、ここでは触れません。企業資料館とアートハウスをお勧めします。企業資料館は資生堂の歴史、広告関連資料の展示。アートハウスは銀座資生堂ギャラリーにて開催された現代工芸展などに出品された絵画、彫刻、工芸品の展示があります。特別展も時折やっています。建物は竣工以来かなり年数が経っていますが、斬新なデザインは現在でも美しいです。あたり一帯はきれいに芝生が敷き詰められ、付近を散策するだけでもすごく気持ちがいいです。



資生堂アートハウス

【久野城址】ヤマハ掛川工場より西約5km、袋井バイパスの北側約1kmにあります。今川方である久野宗隆氏により1490年代に築かれ、その後宗隆は家康の傘下に入り小牧長久手の戦いなどで活躍しました。1590年に家康が江戸に転封させられた時に一緒に関東に移りました。代わって豊臣秀吉が自身の少年時代に世話になった松下嘉兵衛之綱を久野城主に任命しました。城郭遺構は袋井市によりきれいに整備され、往年の城址の形状をよく残しています。本丸、二の丸、三の丸、東の丸、西の丸、南の丸等の曲輪をはじめ県西部では異例といってもいいぐらいの良好な保存整備状況です。

【ハウス食品静岡工場】袋井市にあるお勧めの工場見学スポットです。1号線バイパスを磐田三ヶ野インターで降り旧道を木原交差点で右折し1kmぐらいにあります。残念ながら昨年4月頃より現在に至るもコロナの影響により、見学を休止しています。この袋井の工場では「とんがりコーン」「各種レトルトカレー」等が製造されています。「とんがりコーン」がここで製造されているのを知っている人は少ないと思います。コロナが終息し、見学が再開されるのを待ちましょう。

【大塚製薬袋井工場】ハウス食品から愛野方面に約2km東に行った同じくJR沿いにある施設。いうまでもなく「ポカリスエット」で有名な会社です。ここもコロナの影響で現在も工場見学休止中。

【ヤマハ発動機コミュニケーションプラザ】磐田本社来客用展示施設です。オートバイ、エンジン関連、マリン製品他の展示が充実しています。施設はヤマハ発動機本社の見付寄りにあり、専用駐車場が隣にあります。

【浜岡原子力館】国道150号線御前崎の手前南側に中部電力浜岡原子力館があります。以前行った時は東日本大震災前でしたが、子供連れのファミリー客でかなり混み合っていました。雰囲気としては自衛隊エアパークのような感じです。

その他浜松市内では、エアパーク、うなぎパイ工場、スズキ歴史館、ヤマハイノベーションロードなどがよく旅行雑誌に掲載されています。その他相生町のトリイソース、上島の昭和楽器も人気の見学施設です。

新入会員の入会動機

自分の出身地は湖西市新居町です。すぐ近くに新居関所（全国唯一現存する建物）があり、昭和30年代（すぐ前は役場）のその頃は、自由に鎧、槍、刀、鉄砲などを勝手に持ち出して遊んでいました。今は整理されて素晴らしい遺跡観光地になっています。親戚の見学の時、勉強して説明したのが原点です。

浜松に住んで40年、新人研修中知らない事がたくさんありました。勉強頑張りながら自然体で観光ボランティアを楽しんで努めたいと思います。

岩松一好（北ブロック）

定年退職して浜松にきました。日本のいろいろな所をまわりましたが、浜松はとてもいい所です。その浜松の事をもっと知りたくて入会いたしました。また歴史も好きなので浜松の歴史をもっと知りたいです。

趣味は演劇です。今劇団「空っ風」に所属しております。公演の際はよろしくお願ひします。現在仕事をしておりますが、時間の許す限り参加しますのでよろしくお願ひいたします。

大西昌治（北ブロック）

大胆にも引越して1ヶ月後に申し込んでいました。縁もゆかりも無い浜松の事をよく知りたいという思いからです。一期一会の出会いを楽しみ、充実感を味わえたらと思っています。しかし、地理、歴史に疎く大変な努力が必要です。

日本庭園巡り、テニス、トレッキング、旅行を趣味にしています。先輩方のご指導を仰ぎながら頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

中島玲子（中ブロック）

6月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体			
*	富士市立大淵中学校	2回	105名
3日	木	浜松市立浜名小学校	112名
10日	木	浜松市立上島小学校	153名
17日	木	浜松市立富塚小学校	95名
		浜松市立北浜南小学校	74名
18日	金	浜松市立曳馬小学校	109名
23日	水	浜松市立豊西小学校	65名
24日	木	浜松市立東小学校	71名
25日	金	磐田市立長野小学校	56名
		浜松市立和地小学校	131名
		浜松市立新津小学校	105名

29日	火	浜松市立井伊谷小学校	64名
30日	水	浜松市立飯田小学校	110名
		*上記以外に56名未満の7団体	97名

《犀ヶ崖資料館》

10日	木	浜松市立上島小学校	153名
17日	木	浜松市立北浜南小学校	71名
18日	金	浜松市立曳馬小学校	40名
25日	金	浜松市立新津小学校	105名

《浜松まつり会館》

7日	月	静岡大学情報学部	12名
----	---	----------	-----

はままつ案内人会報 228号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中区元城町100-2（浜松城内）
TEL & FAX 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索

